

第55回日本薬剤師会学術大会にWeb参加して

千葉県学校薬剤師会
常任委員 杉谷宏枝

令和4年10月9日～10日の2日間、仙台国際センターにおいて第55回日本薬剤師会学術大会がハイブリッド方式で開催されました。メインテーマ「結～地域と共に未来へ～」と題しプログラム表紙に書かれた「結」の字は羽生結弦選手の書でした。学校薬剤師に関する基調講演をご報告いたします。

10月9日(日) 分科会9 学校における新興感染症対策と健康教育

1) 学校における新型コロナウイルス感染症に関する
保健教育・保健管理

文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課
健康教育調査官 鈴木貴晃

学習指導要領の方向性は3つの柱からなっている。①生きて働く知識・技能の習得 ②未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力の育成 ③学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性の涵養。改訂「生きる力」を育む中学校保健教育の手引き追補版として作成された「保健体育第3学年指導事例、感染症の予防～新型コロナウイルス感染症～」は新型コロナウイルス感染症の感染拡大を踏まえ指導の充実を図ることを考慮して作成された。感染を予防するには、発生源をなくすこと、感染経路を遮断すること、主体の抵抗力を高めることが有効であることがあげられる。また感染症にかかった場合は周囲に感染を広げないことが重要である。感染症の予防について習得した知識を自他の生活に適用したり応用したりして健康を保持増進する方法を選択することができるようにする。

学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」～(2022.4.1Ver.8)には感染症対策について記載されているので、学校薬剤師も確認し指導助言してほしい。

令和4年7月15日に「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」が変更された。効果的な換気のポイントとして、「換気を阻害しないパーテー

ションの配置」「定期的な機械換気装置の確認やフィルター清掃」「できるだけ二方向の窓を常時開放する」「換気用ファンやHEPAフィルター付空気清浄器の検討」「二酸化炭素濃度測定器(CO2センサー)の使用」がある。

令和4年9月2日には感染拡大防止のための効果的な換気について、気候に応じてできる限り1,000ppm相当の換気等に取り組むことが望ましいとされた。適切な換気確保のために二酸化炭素濃度測定器等が文部科学省「学校等における感染症対策等支援事業」等による補助対象とされた。

好事例を全国的に共有することが感染症対策の充実に寄与することを期待し、日本学校保健会発行の「学校における感染症対策実践事例集」を確認してほしい。

引き続き児童生徒学校に対し安全で適切な指導助言をお願いしますと締めくくられた。

2) コロナ禍における学校薬剤師の役割～新型コロナウイルス感染症を踏まえた学校における保健管理と保健教育～

東京薬科大学 薬学部 社会薬学研究室
教授 北垣邦彦

学校薬剤師は、学校を通じて将来の地域の担い手となる子どもだけでなく、現在の顧客である子どもの保護者などに働きかけることができる。公益性を示すことができる職務である。

地域社会と薬局薬剤師がWinWinになるために「学校薬剤師活動の充実⇔薬局薬剤師の地域貢献⇔地域に根ざした薬局の認知の向上」があげられる。学校保健委員会は学校における健康に関する課題を研究協議し健康づくりを推進するための組織であるが感染症対策の協議、情報共有の場としても活用できる。学校薬剤師は学校保健委員会に情報提供し活性化することが望まれる。

令和3年の薬剤師による薬物乱用防止教室の割

合は小学校 38.5%、中学校 26.8%、高等学校 16.0%であった。今後の学校薬剤師へ期待したい。学校薬剤師は地域学校の健康に関する合意形成の助言者であってほしい。うっかりドーピングや予防接種等においても Risk&Benefit について考えることが出来る子どもと国民の育成に努め、地域住民に薬剤師をもっともっと知ってもらおうと締めくくられた。

3) コロナ禍における薬物乱用防止活動について—薬物乱用防止指導者へのアプローチ—

公益社団法人 日本薬剤師会学校薬剤師部会 幹事
一般社団法人 愛知県学校薬剤師会
会長 木全勝彦

教育における学校薬剤師への期待として薬物乱用防止教室がある。講師は警察職員、麻薬取締官 OB、学校薬剤師等である。コロナ禍で授業が受けられない。薬物乱用防止教室が開催できない。またメディア等からの煽り、唆しから大麻、オーバードーズ等の問題行動の増加が生じた。薬物乱用防止教室は学校保健計画に位置付け、すべての中学校及び高等学校において年1回は開催するとともに地域の実情に応じて小学校においても開催に努める。関係機関と連携し、薬物乱用防止教室の開催率の向上に向け一層の指導の徹底を図るよう令和4年6月28日に文部科学省より事務連絡があった。文部科学省による薬物乱用防止教室開催状況調査をみると平成30年から令和3年にかけて約8%の減少が見られた。97%の学校は薬物乱用防止教室を学校保健計画に位置づけていたが、薬物乱用防止教室を開催しなかった理由として体育科・保健体育科で指導しているため必要ないと考えたという回答が多かった。依頼した講師の職種は警察職員 33%、薬剤師 31%、民間団体等構成員（ライオンズクラブ等の社会奉仕団体等構成員）7%、造けいの深い指導的教員 7%、薬物乱用防止指導員（保護司、教育関係者等）4%。木全先生は現在愛知県の薬物乱用防止推進協議会で民間団体等構成員、警察職員等に研修会を行い新たな知識、資料の提供を行っておられる。

令和3年6月25日に大麻等の薬物対策のあり方検討会報告書が取りまとめられた。①成分に着目した規制（THC）②大麻から製造された医薬品の施

用に関する見直し（大麻から製造された医薬品の製造や施用を可能とすべき）③大麻の「使用」に対する罰則である。

最後に今後の薬物乱用防止教室への取り組みとして、医学・薬学及び関係法令との関係性、薬物に対するエビデンスの高い、正しい情報（知識）を基に、適切な指導・相談・対応を行う。薬物だけでなく、医薬品・医薬部外品・食品添加物・食品等の不適切使用についても取り上げる。フェイクニュース、煽り、唆し等利用者への影響が大きい SNS をはじめとした情報流通に対する適切な利用方法の指導、関係機関との連携をはかることがあげられた。

4) 学校薬剤師の新たな可能性を探る～性教育に挑戦する薬剤師～

有限会社ヒルマ薬局 取締役 比留間康二郎
薬物乱用防止教室1回りの授業で何が伝わっているのか？ SNS で相談できる場所を設けた。会う頻度を増やすことを考えた。薬局は相談できる場所であり、薬剤師は相談できる人である。薬物専門講師を取得後 NPO 法人ポジティブフロムジャパンに携わり命の大切さについての授業も行った。1日84人の人が自殺している。日本の自殺者数で一番多い年代は40才台である。薬と命の教育から性感染症の指導、そして性教育の指導を行ようになった。ジェンダー、LGBTQ、妊娠、性病等、寝ている子を起す教育ではなく、学校との打ち合わせを詳細にして NG ワード、NG 表現に留意し性感染症、PrEP（暴露前予防内服）、緊急避妊薬の講演を親向けに行った。

人は変化を怖がるがこれを恐れては進められない。自分のもっている情熱、可能性を諦めていないか？学校薬剤師の道が新しい道になるようにと締めくくられた。

私たち学校薬剤師は児童、生徒、学校の安全の為、文部科学省等から出される情報を把握し学校の環境衛生に努めると共に、地域社会や関連機関とも連携をはかり、新しいことにもチャレンジする精神を忘れないようにしようと思いました。